

市民力かわら版



成人式を 忘れえぬ思い出・宝物に

一月十二日(日)、矢板市文化会館で、平成二十六年の成人式が開催された。この成人式の運営の核になっているのが、成人式実行委員会だ。

当日、司会を担当した男女二人の成人式実行委員は、「一生に一度の思い出として、この式典を宝物にするため協力を」と呼び掛けた。

毎年公募で決まる実行委員だが、成人式の開催前の実行委員会や式典前日のリハーサルなど多忙な中、実行委員七人に、応募した動機や成人式に対する思い、将来の目標などを聞いた。

◆実行委員の役割

「実行委員は、全部で七人(男性五人、女性二人)です。八月から打ち合わせを重ね記念事業と、記念品を何にするかを決め、成人式当日の役割分担を決めました。」

当日の司会は二人、開式、閉式の言葉一人、市民憲章唱和二人、祝い品受理一人、誓いの言葉一人です。成人式前



野州轟一番太鼓によるオープニング

日にリハーサルを行います。当日みんなの前でうまくできるか心配ですけれど、全力を尽くしてやるしかないと思っています。記念事業の時間があまり取れないのも心配です。実行委員の皆さんは話していた。

式当日、誓いのことばを担当した実行委員の一人は「家族や先生をはじめ多くの人に支えられて育った矢板を改めて意識した。進む道は、いろ

いろであり、さまざまな困難もあると思うが、可能性を信じ、より一層精進し、努力を続け、矢板市の担い手となり素晴らしいまちづくりに尽力していきたい」と、堂々と力強く述べていた。

◆応募のきっかけ

「両親の勧めや友達に推薦されたので応募しました」「実家の矢板から通勤できる勤務先になったことから応募しました」など。

実行委員みんなが共通していたのは、「生涯一度の成人式に関する経験ができて、やりがいを感じられると思ったから」と、人生の大きな節目であることを、ひしひしと実感しているようだった。

◆思い出に残る記念事業を

過去の記念事業は、昭和六十年前後は記念講演、平成に入ってから新成人の意見発表、コン



7人の実行委員の晴れ舞台

「医療機器の溶接の仕事をしているが、地元が元気になるよう貢献したい」
「まだ何をしたいかわからない。矢板で私に合った仕事があれば帰って来れるかも知れないが」など、それぞれ違ったが、若さあふれる心境を語ってくれた。(T・H)

サートなどが実施されてきた。今年も、それら過去の記念事業を参考にしながら、中学校卒業当時のスライドショーと恩師のビデオレターの実施を全員一致で決めた。

その理由を尋ねると、「成人して今はバラバラになったみんなに、故郷の思い出を胸に焼き付けて欲しいと思ったからです」と、式にかける思いが伝わってきた。

◆将来の目標はそれぞれ

将来の目標を尋ねると、「税理士を目指していますが、将来的には地元でカフェを経営してみたい」
「経済学を勉強していますが、日本経済を立て直し、若い人を盛り上げたい」